クビアカツヤカミキリ
防除対策マニュアル（暫定版）

早期発見、早期防除にご協力を！

- 知る
- 見つける
- 対策する

和歌山県

令和４年１月

クビアカツヤカミキリ防除対策マニュアル

目　次

国内及び県内での被害状況 …… 1

［知る］

クビアカツヤカミキリとは …… 2

クビアカツヤカミキリの生活環 …… 3

［見つける］

フラスの見つけ方 …… 4

間違いやすいフラスとの見分け方 …… 5

［対策する］

防除対策の種類と時期 …… 6

幼虫の掘り取り、捕殺（刺殺） …… 7

薬剤による幼虫駆除 …… 8

伐採・抜根による幼虫駆除 …… 9

ネット被覆による成虫飛散防止と捕殺 …… 10

［見つける］［対策する］

成虫の防除対策 …… 11

薬剤による成虫の防除 …… 12

支援策

病害虫防除対策事業 …… 13

クビアカツヤカミキリ対策は、
■ 知る　■ 見つける　■ 対策する　で早期に対処を！

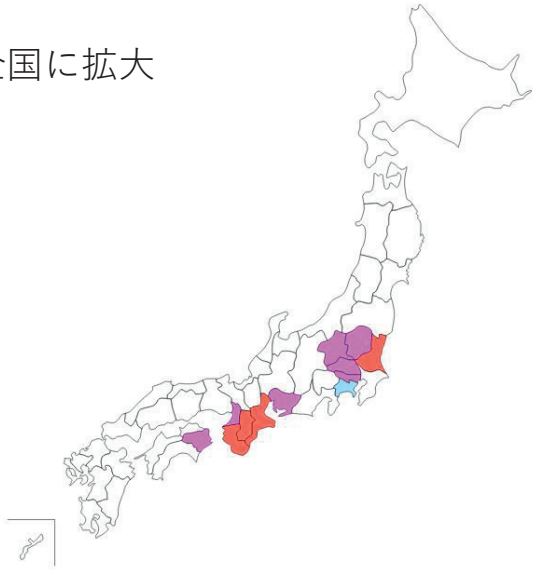
国内及び県内での被害状況

● 国内

・平成23年に埼玉県で初めて成虫を発見
・平成24年に愛知県で被害が確認されて以降、全国に拡大
・令和３年には、全国１２都府県で被害を確認

被害の確認

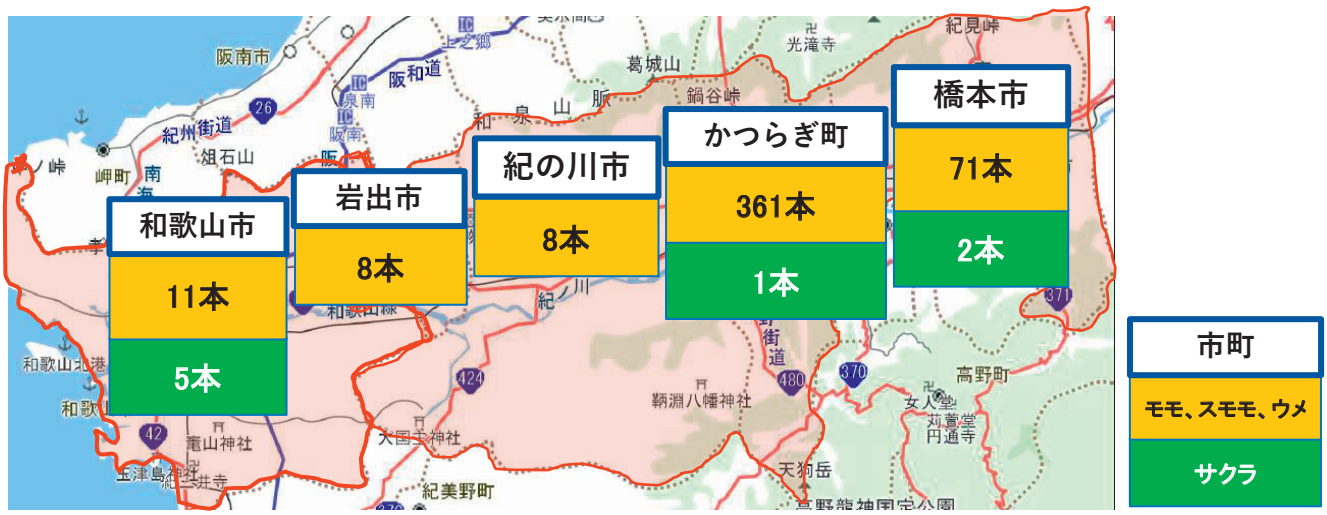
年度	都府県名
平成24年	愛知県
平成25年	埼玉県
平成27年	群馬県、東京都、大阪府、徳島県
平成29年	栃木県
令和元年	奈良県、三重県、茨城県、**和歌山県**
令和３年	神奈川県



● 県内

・平成29年７月にかつらぎ町で雄成虫を発見
・令和元年11月にかつらぎ町のモモで最初の被害を確認以降、
　紀北地域のモモ、スモモ、ウメで被害が急激に拡大
・令和３年７月には和歌山市で県内最初のサクラでの被害を確認

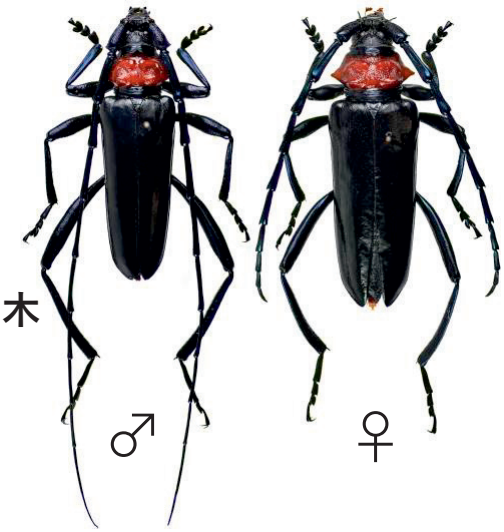
県内の被害状況　（令和3年11月末）



［知る］ クビアカツヤカミキリとは

クビアカツヤカミキリ　*Aromia bungii*

- ✓ **分類：コウチュウ目　カミキリムシ科**
  アオカミキリ族　ジャコウカミキリ属
- ✓ **成虫：大型（2～4cm）で**
  全体は艶のある黒色、クビ（胸部）は赤色
- ✓ **分布：中国、モンゴル、朝鮮半島、ベトナムなど**
- ✓ **宿主：サクラ、モモ、 スモモ、ウメ等のバラ科の生木**
- ✓ **幼虫期間：１～３年**
- ✓ **成虫発生期：５月下旬～８月中旬**
  幹や樹皮の割れ目に産卵



● 特徴

・幼虫がモモ、スモモ、ウメなどの樹木内部を食害し木を枯らす
・産卵数が非常に多く、１匹のメスの産卵数は平均**350**個、
　最大**1000**個以上で繁殖力が高い
・飛翔力が高く、被害は急速に拡大・激甚化する
　（成虫の移動距離は年間２～３km）
・車などに留まり長距離を移動する可能性もある

［ 注意 ］

「特定外来生物」

平成30年1月、環境省は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づき、クビアカツヤカミキリを「生態系や農林水産業などに被害を及ぼす外来生物」（特定外来生物）に指定しました。
これにより、**飼育や生きたままの運搬・保管・野に放つことなどが禁止**されています。
成虫や幼虫は見つけ次第、捕殺してください。

［知る］ クビアカツヤカミキリの生活環

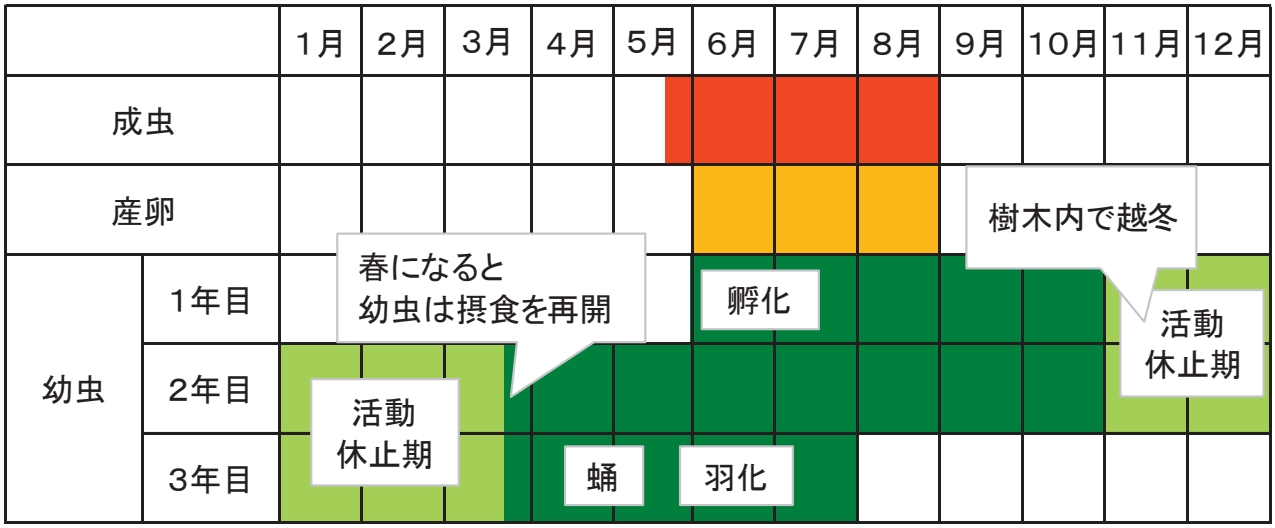
成虫の発生・産卵
（5月下旬～8月）

成虫の脱出孔
は楕円形

幼虫の摂食
（3月末～10月）

フラスの排出

● 幼虫期間を2年と想定した場合



大阪府：クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書を参照

■ 成虫は５月下旬～８月頃に発生し、宿主樹木の樹皮表面や割れ目などに産卵（成虫は１ヵ月程度生きる。成虫では越冬しない）
■ 卵は１０日前後で孵化し、幼虫は樹皮下へ食入
■ 幼虫は樹皮下を食害し、樹木内で１～３年かけて成長した後、蛹化

［見つける］ フラスの見つけ方

まずは**園地を見回り、フラスを探す**
特に、フラスの排出を確認しやすい**３月下旬～１１月**の見回りが重要

※フラスとは、幼虫が木の外に排出する「木くずとフンが混ざったもの」

ミンチ状のフラス

表皮の亀裂から排出したフラス

枝の上部から排出したフラス

株元に大量にたまったフラス

ポイント

株元だけでなく、
地上から高さ3m、
直径5cm程度の枝
まで注意する

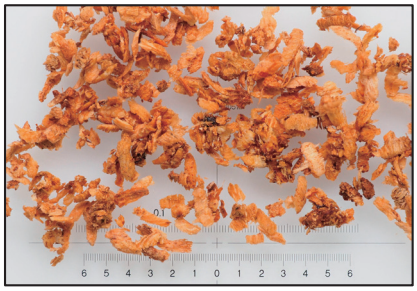
主枝直下や足元のフラスに
注意すると見つけやすい！

［見つける］ 間違いやすいフラスとの見分け方

クビアカツヤカミキリは、ミンチ状や粉状のフラスを排出することが特徴であるが、見分けが難しい場合は、ほぐしてみると判別しやすい

クビアカツヤカミキリ

☑ **明るい**色のフラスが排出される
☑ 削りとられたような**薄い木くず片**を多く含む



ゴマダラカミキリ

☑ **繊維状の木くず**を多く含む

ウスバカミキリ

☑ **繊維状の木くず**を多く含む

コスカシバ

☑ **顆粒状の糞**が多い

写真提供：栃木県

単位：mm

アリ類

アリ類はパウダー状

［対策する］ 防除対策の種類と時期

一つの方法で完全な防除は難しいので、
複数の方法を組合せてしっかりと防除する

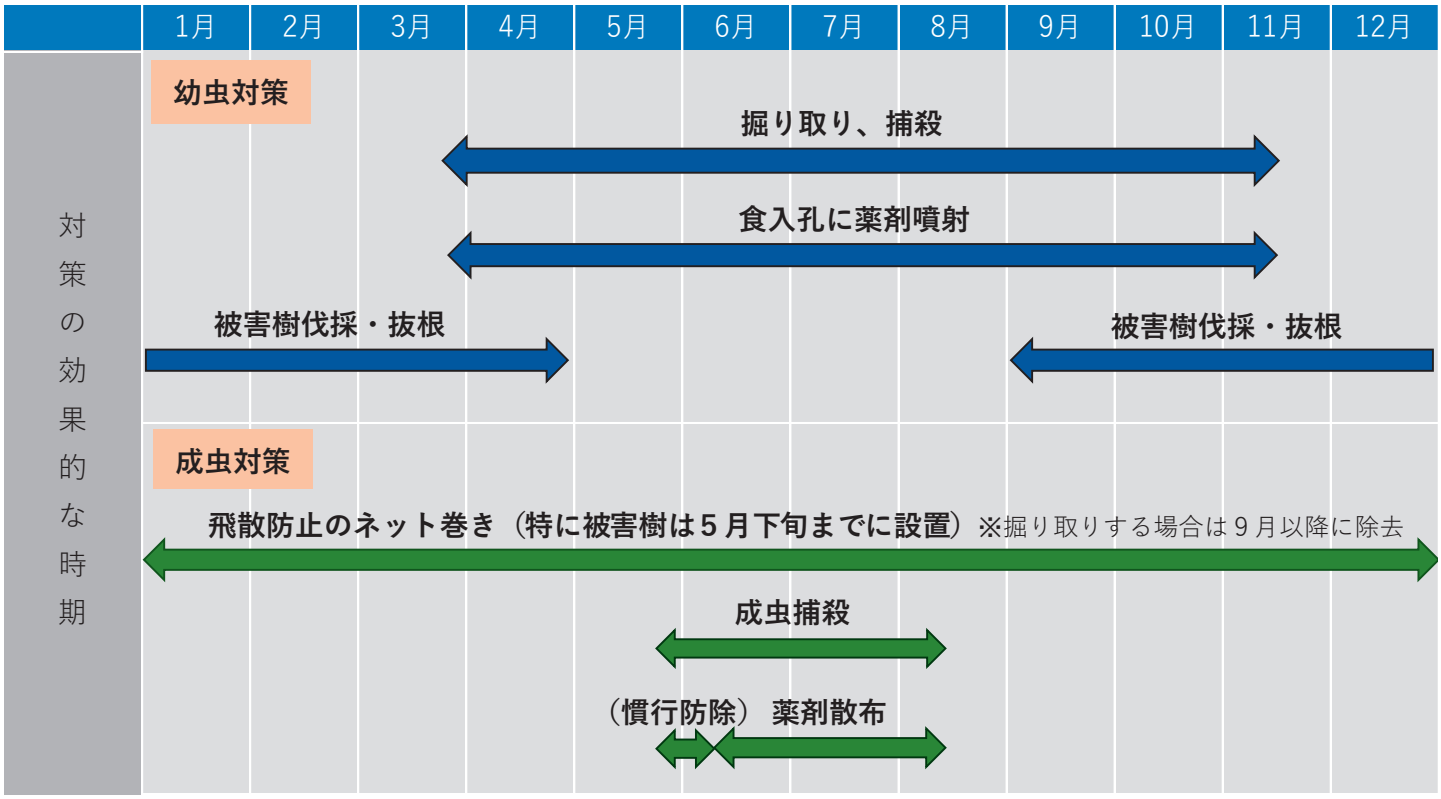
対策種類

対策		対象 幼虫	対象 成虫	内容	関連ページ
農薬使用	食入孔に噴射	○	ー	フラスの出ている穴に薬剤を噴射	p8
農薬使用	散布	△	○	木に薬剤散布	p11-12(成虫)
農薬以外	ネット巻き	×	○	ネット被覆による成虫の脱出防止	p10
農薬以外	掘り取り・捕殺	○	○	定期的な見回りによる直接駆除	p7(幼虫) p11(成虫)
農薬以外	被害樹の伐採・抜根	◎	ー	被害樹を伐倒し粉砕または焼却	p9

◎：効果が高い　○：効果がある　△：効果が低い　×：効果がない　ー：対象外

対策時期

各種防除対策は効果的な時期に実施する



［対策する］ 幼虫の掘り取り、捕殺（刺殺）

（３月下旬～１１月）

フラスを見つけたら、フラス排出部分周辺の樹皮を剥ぎ、針金を差し込み、幼虫を刺殺または掘り取り、捕殺する。

● 必要な道具

マイナスドライバー、ハンマー、針金、ブラシなど

①フラス排出場所を見つける
ブラシでフラスを除く

②ドライバーとハンマー等を用いて
表皮をはずす

③太さ約2mmの針金を差し込んで
フラスを掻きだす

④幼虫を刺殺する
針金で刺殺（可能であれば幼虫を取り出す）
念のため薬剤を食入孔に噴射する

⑤期間を空けて、見回り
フラスの再排出に注意する！

［対策する］ 薬剤による幼虫駆除（３月下旬～１１月）

● 必要な道具

針金、ブラシ、スプレー式薬剤（注入器（スプレー式以外））

スプレー剤の使用方法

排出フラスを硬いブラシや針金等で取り除く

排フン孔を探すフラスを針金等で掻き出す

ノズルがつまるので、薬液を出しながら排フン孔にノズルをさし、噴射する

薬液があふれるまで噴射する

写真提供：大阪府、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所

幼虫の食入孔に使用する薬剤（令和３年12月現在）

作物名称	農薬の名称	使用時期	希釈倍数・使用量	使用方法	本剤の使用回数	RACコード
もも	バイオセーフ	幼虫発生期	2500万頭（約10g/2.5L）	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	-	-
	ベニカカミキリムシエアゾール※1	収穫前日まで		樹幹・樹枝の食入孔にﾉｽﾞﾙを差し込み噴射	5回以内	3A
	ロビンフッド※1	収穫前日まで		樹幹・樹枝の食入孔にﾉｽﾞﾙを差し込み噴射	5回以内	3A
すもも	ベニカカミキリムシエアゾール※1	収穫前日まで		樹幹・樹枝の食入孔にﾉｽﾞﾙを差し込み噴射	5回以内	3A
	ロビンフッド※1	収穫前日まで		樹幹・樹枝の食入孔にﾉｽﾞﾙを差し込み噴射	5回以内	3A
うめ	バイオセーフ	幼虫発生期	2500万頭（約10g/2.5L）	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	-	-
	ベニカカミキリムシエアゾール※1	収穫前日まで		樹幹・樹枝の食入孔にﾉｽﾞﾙを差し込み噴射	5回以内	3A
	ロビンフッド※1	収穫前日まで		樹幹・樹枝の食入孔にﾉｽﾞﾙを差し込み噴射	5回以内	3A
果樹類※2	ベニカカミキリムシエアゾール※1	収穫前日まで		樹幹・樹枝の食入孔にﾉｽﾞﾙを差し込み噴射	5回以内	3A
	ロビンフッド※1	収穫前日まで		樹幹・樹枝の食入孔にﾉｽﾞﾙを差し込み噴射	5回以内	3A

※１：カミキリムシ類に登録のある薬剤

※２：果樹類(かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、ﾏﾝｺﾞｰを除く)

［ 注意 ］　最新の登録情報を検索のうえご使用ください

検索先　→Google Chromeまたはedgeにて、*農薬登録情報検索システム*で検索！

［対策する］ 伐採・抜根による幼虫駆除

（９月～４月下旬）

成虫の発生の恐れのない９月以降から４月下旬までに実施する

● 被害の拡散防止

・伐採・抜根は確実に幼虫を駆除できるため、被害拡散防止効果が最も高い
・健全樹への被害拡散防止にもなる

幼虫が
根まで侵入していた
事例がある

抜根できない場合は、伐採後、根をシート等で覆う

［ 重要 ］

株元からの成虫離脱防止
・切り株を目合い4mm以下のネットで覆い、さらに、ブルーシートや防草シートで覆う

［ 注意 ］
■伐採樹は枯れても成虫が脱出するので放置せず、４月下旬までに粉砕（10mm以下）、または焼却処分する
■焼却処分等園外へ持ち出す場合は、逸出防止が必須
■速やかな処分が難しい場合は、園内で回収しやすい場所に短期保管（３月下旬まで）とし、目合い4mmのネットで２重に被覆しさらにビニールで覆う
■園外へ持ち出すのが難しい場合は、くん蒸処理する方法もある

根 覆 い

くん蒸剤（令和３年12月現在）

農薬の名称	作物名称	くん蒸時期	希釈倍数・使用量	使用方法	本剤の使用回数	RAC コード
ＮＣＳ	うめ、もも、すもも（伐倒木）	14日以上	被覆内容積1m^{3}当り原液1.0L	加害された伐倒木を配置し本剤を散布し、直ちにﾋﾞﾆｰﾙ等で密閉し、くん蒸する。	1回	8F
キルパー４０	うめ、もも、すもも（伐倒木、枯損木）	14日以上	被覆内容積1m^{3}当り原液750～1500ml	加害された伐倒木を集積したものまたは枯損木に、所定薬量を散布し、直ちにﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄ等で密閉し所定期間くん蒸する。	1回	8F

［ 注意 ］　最新の登録情報を検索のうえご使用ください

［対策する］

ネット被覆による成虫飛散防止と捕殺（５月下旬までに）

伐採・抜根が難しいときは・・・

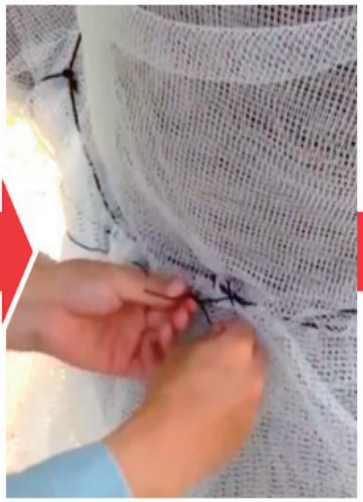
成虫の飛散防止のために２重にネットを巻く

● 必要な道具

ネット（目合い4mm程度）、ひも（マイカー線など）、結束バンド、ペグ

主枝の分岐部(股の部分)からネットを巻く
主枝をひも等で縛る

ネットのつなぎ目は、しっかりと縫い付ける
(巻き込みと結束バンド)



樹幹部分でネットに余裕をもたせ２重に巻く

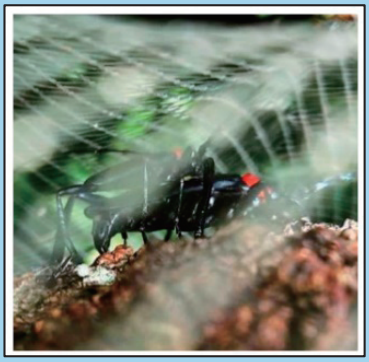
根元のネットはペグ等で地面に固定する

［ 重要 ］

「ネットを巻いたら終了」ではない！

定期的に見回り、ネット内の**成虫を捕殺してください！**

ネットをかみ切ろうとする



ネット内で交尾する

放置すると…
①ネットをかみ切り脱出
②ネット内での交尾・産卵

写真提供：大阪府、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所

■ 見つけ次第、捕殺

・成虫は５月下旬～８月に発生する

・昼行性で気温の高い日中は樹上を活発に動き回る

・羽化後すぐに交尾が可能なため、**見つけたら必ずその場で捕殺する**

［注意］

特定外来生物に指定されているため、生きたまま持ち運ぶことは禁止されています

■ 幹や枝にもかかるよう丁寧に薬剤を散布

・**６月中旬～８月上旬**まで登録薬剤を**10～14日間隔で２回以上散布**する（特に**６月下旬～7月下旬が重要**で、収穫後であっても散布する）

・使用薬剤は登録内容に基づき薬剤抵抗性発達防止を考慮し、選択する

注意：SSの場合は下側のノズルを開ける

［対策する］

薬剤による成虫の防除

（６月下旬～８月上旬）

成虫発生時期に使用する薬剤（収穫前の日数のごとに色分け）（令和３年12月現在）

作物名称	農薬の名称	使用時期	希釈倍数	使用方法	本剤の使用回数	RACコード
もも	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	4A
	テッパン液剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内	28
	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	4A
	ハチハチフロアブル	成虫発生期但し、収穫前日まで	1000倍	散布	2回以内	21A/39(C1)
	スミチオン乳剤	成虫発生初期 但し、収穫3日前まで	1000倍	散布	6回以内	1B
	ダントツ水溶剤/ベニカ水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	散布	3回以内	4A
	オリオン水和剤４０	成虫発生期但し、収穫14日前まで	1000倍	散布	2回以内	1A
	スプラサイド水和剤	収穫21日前まで	1500倍	散布	2回以内	1B
	スプラサイドM	収穫60日前まで	200倍	樹幹部及び主枝に散布	2回以内	1B
すもも	テッパン液剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内	28
	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤/ベニカ水溶剤	収穫3日前まで	2000倍	散布	3回以内	4A
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	散布	2回以内	4A
	オリオン水和剤４０	成虫発生期但し、収穫14日前まで	1000倍	散布	3回以内	1A
	スプラサイド水和剤	収穫14日前まで	1500倍	散布	2回以内	1B
うめ	アクセルフロアブル	収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内	22B
	ダントツ水溶剤/ベニカ水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	4A
	テッパン液剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内	28
	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	4A
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	散布	2回以内	4A
	スプラサイド水和剤	収穫14日前まで	1500倍	散布	2回以内	1B
	オリオン水和剤４０	成虫発生期但し、収穫7日前まで	1000倍	散布	3回以内	1A
	スミチオン乳剤	成虫発生初期 但し、収穫14日前まで	1000倍	散布	2回以内	1B
果樹類	バイオリサ・カミキリ	成虫発生初期	1樹当り1本	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける。	-	-

※小粒核果類（あんず、うめ、すもも）として登録のある薬剤を含む

※スプラサイド剤は令和4農薬年度で販売終了

［ 注意 ］　最新の登録情報を検索のうえご使用ください
検索先　→Google Chromeまたはedgeにて、*農薬登録情報検索システム*で検索！

支援策

病害虫防除対策事業

県では、クビアカツヤカミキリの被害拡散防止のため、
被害樹の伐採、抜根、ネット被覆に対する支援を行っています。

事業の活用にあたり、詳しくは最寄りの振興局へご相談ください

事業実施主体：農業者、農業協同組合、農事組合法人等

① 伐採・抜根　：3万円／本
被害樹の伐採、抜根、運搬、樹体処分

② 伐採・根覆い：2万円／本
被害樹の伐採、運搬、樹体上部の処分、株元の被覆処理

③ ネット被覆　：2千円／本
被害樹の幹・枝のネット被覆

④ 5月～8月に被害樹を発見した場合
成虫離脱防止のネット被覆と成虫を捕殺し、秋以降に伐採等処理

ネット被覆＋伐採・抜根　　：3万2千円／本
ネット被覆＋伐採・根覆い　：2万2千円／本

［ 注意 ］
事業の活用にあたり、
振興局担当者等による処理前の確認と処理後の写真が必要

1．被害樹の現場確認　樹別
2．処理後：伐採や抜根後等の写真　樹別

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/d00204085.html

早期発見、早期対策（駆除）が重要！

園地を見回り、クビアカツヤカミキリの成虫やフラスを発見したら必ず、最寄りの振興局、ＪＡ、市町村まで連絡をお願いします。

● **通報先**：県関係機関

地域	通報先			
	振興局	農地：農業水産振興課	森林：林務課	その他（学校関係除く）：衛生環境課
和歌山市、海南市、海草郡	海草	073-441-3382	073-441-3366	073-483-8825
紀の川市、岩出市	那賀	0736-61-0025	0736-61-0015	0736-61-0022
橋本市、伊都郡	伊都	0736-33-4930	0736-33-4910	0736-42-5443
有田市、有田郡	有田	0737-64-1273	0737-64-1263	0737-64-1293
御坊市、日高郡	日高	0738-24-2930	0738-24-2912	0738-24-3617
田辺市、西牟婁郡	西牟婁	0739-26-7941	0739-26-7911	0739-26-7934
新宮市、東牟婁郡	東牟婁	0735-21-9632	0735-21-9612	0735-21-9631
東牟婁郡のうち、古座川町、串本町	―	―	―	串本支所 保健環境課 0735-72-0525

和歌山県　農林水産部 農業生産局
果樹園芸課 農業環境・鳥獣害対策室
TEL：073-441-2905
〒640-8585 和歌山市小松原通１－１

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/d00204085.html